

Message

東京からファッションを 発信した青山ベルコモンズ

1976年、青山のランドマークとして誕生した青山ベルコモンズ。アーバンヒルズ
ゆっくり歩くファッションの中の丘をコンセプトに、日本で初となるファッション
スペシャリティモールを志向し、「Bell=美しい」「Commons=共同体」を由来とする
「Bell Commons (美しい仲間)」というネーミングで、様々なデザイナーたちが世界
に羽ばたいていきました。そんな青山ベルコモンズの軌跡と間近に接してこられ
た方々から、青山ベルコモンズへのメッセージが届きました。

ありがとう青山ベルコモンズ

*写真と名前をクリックするとメッセージが表示されます。

青山ベルコモンズをささえてこられた人たち



青山ベルコモンズ会 会長
株式会社エル・インターナショナル
代表取締役社長
レイコ B. リスター 氏



青山外苑前商店街振興組合 顧問
小林 敬三 氏



南北青山2丁目町会 会長
鈴木 清 氏



青山外苑前商店街振興組合 理事長
坂本 力 氏



青山ベルコモンズ館長
長川 謙三 氏



青山ベルコモンズ 設計
黒川紀章建築都市設計事務所
代表取締役社長(現在)
黒川 未来夫 氏

青山ベルコモンズのファイナルイベントをてがけるアーティストたち



音楽プロデューサー
WEFUNK総監督
城田 寛治 氏



シンガーソングライター
高橋あず美 さん

青山ベルコモンズ ファイナル「オクルエ絵画展」を支えてくださる人たち



福島・いわき市立
豊間小学校 校長
水谷 大 先生



福島・いわき市立
豊間中学校 校長
桐生 由久子 先生



イタリア
アルバ第一小学校 校長
アルベルト・ガルベス 先生



日本健康運動指導士会
福島県支部 支部長
村井 弘 氏



イタリアの心象画家
マルコ・ガンディーノ 氏



マルコ・ガンディーノ氏マネージャー
有限会社アルテッセ代表
桜田裕子 さん

青山ベルコモンズの思い出を語るクリエイターたち



ミュージシャン
ブレッド&バター
岩沢 幸矢 氏
岩沢 二弓 氏



ヘア&メイクアップアーティスト
水島 裕作 氏

青山ベルコモンズを支えてきたアーティストたち



フォトグラファー
石田 晃久 氏

石田晃久さんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



フォトグラファー
新村 真理 さん

新村真理さんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



キャンドルアーティスト
瀧田さりな さん

瀧田さりなさんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



ソーシャルネットワークプロジェクト
毛糸アーティスト
市川 敦子 さん
横川久美子 さん

毛糸アーティストの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



フォトグラファー
山田 純子 さん

山田純子さんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



フォトグラファー
林 道子 さん

林道子さんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



フォトグラファー
Ono Seiko さん

Ono Seikoさんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



JAZZピアニスト
秋田 慎治 氏

秋田慎治さんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



家具職人「キノカゲヤ」
中西さん ご夫妻

中西さんご夫妻の
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



フラメンコ奏者
阿部 真氏・小杉 栄里 さん

阿部真氏・小杉栄里さんの
「アーティストエッセイ」も
ご覧いただけます



シンガー
伊東 真紀 さん



ヘア&メイクアップアーティスト
水島 裕作 氏

今ほどヘア&メイクアップアーティストという職業がメジャーではない頃から、業界のトップで活躍をされていた水島裕作氏。青山の街にも思い出が深いという水島氏に、青山ベルコモンズがオープンした当時のファッションや青山という街について、また青山ベルコモンズへの想いなど様々なお話を伺いました。

テーマは“全てにおいて一流であること”

●米国で一番有名な日本人ヘアドレッサーであった須賀勇介氏に師事された水島氏。ヘア&メイクアップアーティストを目指すことになったきっかけや、現在のご活躍までの道のりについてお話を伺いました。

幼少の頃から、父親から「一流になるには、まず一流の人に出会わなければならない」と常々聞かされていましたが、僕は、特にヘア&メイクアップアーティストになるのが夢というわけではありませんでした。

そんな学生時代を過ごしていたある日、たまたま書店にて「須賀勇介のビューティフルヘア」という本と出会いました。その時、直感で「この人は世界の一流の人だ!」そう思いました。引き込まれるように誌面を読むと、職業は美容師だということが分かったんです。それで、「この人の近くに行きたい」と強く思い、それなら自分も美容師にならなくてはということ、初めて美容師を目指すことに決めました。それが、全ての始まりでした。

山野美容学校を卒業後、日本にて須賀先生がディレクターを務められていた「STUDIO V cut shop」にて、運よく働くことができました。素晴らしい環境の中で、多く先輩から技術を指導して頂きました。そして、須賀先生が来日の際には、念願だったアシスタントをさせていただき、一流のアーティストの振る舞いに触れることが出来ました。在籍中は、多くの大切な事を学ばせていただき、僕の一生の財産になっており感謝しています。

* * * * *

ベルコモンズと共に過ごした時代。

●青山ベルコモンズが誕生した当時、ちょうど青春時代から大人になりかけていた頃だったという水島氏。当時のファッションや文化というのは、水島氏にどう映っていたのでしょうか？

青山ベルコモンズが誕生した頃は、とにかく日本のファッションが輝いていた時代だった気がします。DC ブランドなど、いわゆる“憧れのブランド”が出てきた頃ですね。そのちょっと前、僕が中学生の時は、「VAN」がカッコ良かった。いわゆるアイビースタイル。そして高校の時は、ヨーロッパアンが盛り上がっていて、「JUN」のファッションナブルな TV コマーシャルは今でもはっきりと覚えています。あの時代、日本のファッションというものがとても勢いがある、国内だけでなく、世界へ向けても発信し始めた時期だったのではないのでしょうか。クリエイターも、世界のトップに立つ人達が出始めて……なんだか、“幕開け”という感じでしたね。当時の僕ぐらいの年代、ちょうど大人になりかけの世代だった人達は、そういうパワーや、輝いていた時代というのを間近で見ることができた世代なのかもしれません。

あの頃の若者というのは、今の若い方とは少し違って、皆、大人っぽかった気がします。今の女の子って“カワイイ”ですが、あの頃はそうではなくて、大人っぽく見えることが格好良いというか…だから皆ハイヒールを履いたり、モガの T シャツを着たり、セリーヌのバッグを持ちたりして。

* * * * *

大人の街・青山

●キラー通りに最初のオフィスを構えていた水島氏。思い出深いこの街について、また、当時の青山ベルコモンズについて伺いました。

青山ベルコモンズがオープンした頃のことは、今でも覚えています。レンガ色の外壁に、お洒落なテラスのような場所があって、とても印象的でした。どこかヨーロッパ風の雰囲気、当時そういうデザインの建物があまりなかったので、すごく新鮮だったし、憧れのような存在でしたね。

今は日本のデザインや文化を発信する時代ですが、あの頃は、海外の素敵なデザインや文化をダイレクトに取り入れていて、それが素敵だった時代。青山の街自体も、“成熟した街”という雰囲気がありました。もちろん今もそうですけど。

* * * * *

建物はなくなっても、残してくれたもの。

●最後に、青山ベルコモンズの閉館について、水島氏の想いを語っていただきました。

やっぱり、寂しいですね。僕はこの建物自体がすごく、デザイン的にも素敵だし、貴重だと思うんです。外観もそうだし、中の造りも、すごく贅沢です。何というか、空間を楽しむように造られている、そんな印象を受けるんですね。ただショッピングをするために入る建物というよりは、この建物の中で過ごす時間、それ自体が楽しくなるような空間というか…。

そこから、僕のヘア&メイクアップアーティストとしての道がスタートしました。デビュー時には、テレビ番組の大きなお仕事レギュラー。また、ファッション雑誌、広告、ファッションショーなど、様々な仕事の経験をさせていただきました。本当に僕は幸運で、順調に仕事も進んでいたのですが、30歳を過ぎたとき、「もう1つ次のステージに自分を成長させたい」そう思うようになったんです。それで、全ての仕事を中断して米国へ渡ることに決めました。

ボストン大学にて英語を学んだあと、ニューヨークの「SUGA SALON」にて勤務することができ、その後帰国しました。その時の経験というのは、自分の中ですごく大きなもので、その後、仕事の流れも急が変わったんです。ジバンシー・オートクチュールや劇団四季のミュージカル、等々。また、メイクアップですごく大きな影響を受けたのは、メイクアップアーティスト、チボー・ヴァーブル氏に出会ったことです。ご一緒させていただく中で、パリのエレガンスやソサエティというものを学ばせていただきました。

ヘア&メイクアップアーティストという仕事をしていて思うのは、やはり、ただ素晴らしい技術だけではなくて、人間力が最も重要だということです。今まで、本当に多くの出会いがあり、様々な経験を積ませて頂きましたが、それらが一体何に向かっていたのか…。そう考えると、やはりそれは、この仕事を選んだ時の原点、“一流の人間になりたい”という、自分の中の大きな目標に向かっていただと改めて感じます。その願いは、これからも変わることはありません。

* * * * *

今はファストファッションの時代ですが、昔はそういうのはなかったんです。「竹の子族」が流行った頃から、だんだんとストリート文化というものが出て始めたのかもしれない。

ファッション・スタイルは、シーズンごとにガラッと変わっていました。流行の移り変わりがすごく顕著で早かったんです。パリコレなどで、次々とニュースタイルが発表されるわけですね。そうすると、どこかのブティックへ行っても、示し合わせたように、新しい洋服しか売ってないんです。ヘアメイクも、ファッション雑誌などで最新のスタイルが打ち出されると、皆それを真似てガラッと変わるんです。ファッションはシーズンごとに、頭の先からつま先まで、全身変わっていく…そんな感じでした。また、それを追いかけるのが、すごく楽しかったんですね。

今思うと、あのパワーの根底にあったのは、“もっと、もっと、成長したい”という気持ちだったような気がします。ただ流行に流されるという事ではなく、自分を高めるために、無理をしても少し背伸びをする…みたいな、そういう時代でした。そして、自分の眼で確かめたくて、海外へもどんどん出て行きました。努力をして、成長できれば、必ずそれに見合うステージで結果が出せると、信じていました。僕だけではなく、若者全体がそういう時代だったような気がしますね。

* * * * *

そして、なんとというか、作られた街ではないんです。昔から培ってきた青山という街独特の雰囲気があって、青山にしかない空気がそこにはあって。そういう、街自身が持っている価値というのは、僕はすごく大切なことだと思うんです。それって、後から作れるものではないですね？“成熟”した街の魅力って、決して大人のためだけにあるものではなくて、これからの若い世代の人たちにとっても、すごく大きなものだと思うんです。だから是非、若い世代の人たちにそういう魅力を引き継いでいってほしいなと願います。

ちなみに、僕の最初のオフィスはキラー通りに構えました。若い時から青山は憧れの場所だったので、「ここからスタートしたい」そういう気持ち、ずっとあったのだと思います。

* * * * *

「ゆっくり歩くファッションの丘」というコンセプトにも、すごくうなずけます。こういう建物って、もう今の時代にはないですね。

時代は流れ、社会の価値観も大きく変わりました。しかし、当初のコンセプトを貫き通し、ぶれずに存在されてきたことは、本当に素晴らしいことだと思います。この青山ベルコモンズが残してきた歴史や功績を讃えつつ、さらなる次の時代に期待したいと思います。

水島 裕作
須賀勇介氏に師事。渡米、「SUGA SALON (New York)」を経て帰国。2013年、「MIZUSHIMA OFFICE」を設立する。活躍の場を日本にとどまらず世界に広げ、彼の技術と人間性は、現在、スーザン・ロックフェラー氏をはじめ、世界の要人・セレブリティからも支持されている。
URL <http://mizushimaoffice.com>